

# 淡座

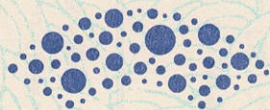
AWAI ZA

ヴァイオリン 三瀬 俊吾

チェロ 竹本 聖子

唄・三味線・胡弓 本條 秀慈郎

作曲・編曲 桑原 ゆう



# 淡座

AWAI ZA

かわびら  
川開き

2023.06.24

深川富士見

淡座 三瀬 俊吾  
竹本 聖子  
本條 秀慈郎  
桑原 ゆう

江戸にまなび  
音と言葉のあわいをえがく

淡座は、現代音楽、クラシック音楽、日本の芸術文化を行き来し、文化の古今と東西をつなぐことを目的とした、クリエイティブグループです。

私たちは、日本の文化の中で、とりわけ江戸文化から学ぼうとしています。江戸独自の発想のもと、「形のないもの、目に見えないもの」、つまり、言葉、文化、哲学、思想など、ひとの生活を豊かにするものがあり方を模索し、作品や演奏として発信しています。

今後の公演

淡座二夜

第一夜：2023年12月26日 ㊦

ゲスト出演／古今亭志ん輔（落語家）

第二夜：2023年12月27日 ㊦

ゲスト出演／本條秀太郎（三味線演奏家）

於 深川江戸資料館小劇場 江東区白河1丁目3-28

メール

お電話

お問い合わせ ▶ info@awaiza.com ・ 080-4091-6491

川開き 二〇二三

乗船料

5,000円

お飲みもの付き

40名限定

乗船場

深川富士見

（東京都江東区古石場2丁目18-5）

門前仲町駅2番出口より徒歩12分

門前仲町駅から送迎バスをご用意します。

越中島駅3番出口より徒歩13分

日時

2023年6月24日 ㊦

15時半受付開始

16時出船・18時帰船予定

三味線、ヴァイオリン、チェロで「流し」ながら江戸の名所をめぐる粋な船遊び。

### 周遊航路と演奏曲

《吹けよ川風》と《佞流し》以外すべて、桑原ゆう編曲。

#### 端唄「夕暮」

「夕暮に眺め見渡す隅田川 月に風情を待乳山  
ヴァイオリン、チェロから「声」が聴こえる  
淡座ならではの表現で、帰路を彩ります。

#### 佞流し

作詞／小川寿、作曲／山田抄太郎  
採譜・編曲／本條秀太郎

#### あわい・つくだ

作曲／桑原ゆう  
川や舟を表す三味線の手「佞」による  
淡座版リバーダンス！

#### 端唄「吹けよ川風」

「吹けよ川風 あがれよすだれ 中の小唄の主見たや  
「佞節」ともい、歌舞伎の下座音楽としても、隅田川や  
深川付近の船のさわぎの描写で用いられる唄。

#### 端唄「芝で生まれて」

芝や神田のヒーロー、火消し組。なかでも、纏持ちは花形。  
江戸っ子の粋と、古き良き時代のニューヨーク、ダウンタウンの  
若者たちの心意気とを、オーバーラップさせて。

#### 端唄「木遣りくづし」

木遣りは、日本各地に伝わる仕事唄。  
「火事とけんかは江戸の華」と言われるほど火事の多かった江戸では  
火消しやとびが息を合わせるために唄いました。

HANABI 作詞／渡辺えり子、作曲／本條秀太郎

本條秀太郎先生が即興的に二十分で作曲されたという、  
現代端唄ともいえるべき作品。

#### 端唄「上げ汐」

花火を合図に一齐に出船。屋台は江戸っ子たちで賑わい、喧騒に  
混じるは、口上と「玉屋」の掛け声。  
ケチャのリズムで、バリ・ガムランのエッセンスを入れた編曲。

#### 端唄「えんかいな」

夏の涼みは両国にて。「あがる流星」と喩えるのは花火。  
「玉屋」が取り持つ人々の縁。  
「浮かんでは消え、消えては浮かぶ、ヨーロッパのあの河の  
幻想とともに。

#### 端唄「深川節」

吉原に繰り出す若者たちを乗せ、漕ぎ出る猪木舟。  
ジャワ・ガムラン風の編曲で、インドネシアの風も吹き込んで。

#### 花の風雅

作曲／本條秀太郎  
執拗に繰り返す八分の六拍子の「手」が、  
台場の埋め立てられたコンクリートの質感を  
想起する、現代の隅田川を表現した作品。

#### 花のフーガ

作曲／桑原ゆう  
《花の風雅》に対して駄洒落で作曲した、皆さん  
お馴染み、あの「花」の主題を用いたフーガ。  
しかもこの隅田川、「鱒」も泳いでおります！

#### 《継ぎ接ぎ忠臣蔵》よりお囃子

作曲／桑原ゆう  
「仮名手本忠臣蔵」を端唄と音楽で表現する《継ぎ接ぎ忠臣蔵》。  
本年十二月には、一段目から四段目までを再演し、五段目から七段目を  
新作として初演しますので、どうぞお楽しみに！

